

樺、ゴンドラ、エトワス、パンドーラ、ベル・ヌイ、オララ、アザミ、タンチヨ、スリール、ナナ、グラウス等々と渡り歩いたら、いくらお金と時間があつても、中々追ひつくまい。

ビヤ・ホールとカフエの雪崩

かうした女給本位ほんゐ（女給が美しければ気分もいゝのだから、これを気分本位と訂正ていせいしてもよろしい）のバーが銀座を風靡ふうびしてゐる中なかにあつて、北銀座にカフエ・キリンがあり、南銀座にエビス・ビヤホールの二つの店みせが對立して、専ら酌器じやくきでビールばかりを飲む客を呼んでゐるのは、聊いささか興味きょうみを引くに足りる。

エビスの方は純然じゆんぜんたるホールで、食物たゐもといつても豆まかおでんぐらゐのものであるが、確つか月に三回だつたか、その日は黒ビールを普通の値段ねだんで出してくるので、ビール黨つとめだんの勤人つとめじんや學生や商人が、盛んに酌器じやくきの數かずを重ねて、恐らくビールを飲めぬ人から、一體あんなにビールを腹はらに詰つめてどうもなりはしないのかと疑うたがはれるくらゐに、皆みなな眞まつ赤かに茹ゆだつて、誰たれれ憚はらず

口から泡を飛ばして議論を戦はすものがあるかと思ふと、早くも親密な友情を發露して相手の肩にしなだれかゝるものがあるといふ具合に、その潮時には、譯の分らぬトーキーを更らにまた擴聲器にかけたやうに、ホール一杯が轟々と響き渡つて、いつもはち切れるやうに賑つてゐる。

一方キリンの方は、カフェである丈け洋食も出來て、それに女給たちが何れも藍色の袴衣に海老茶の帯をメめ、一種木訥な風格を見せてゐるので、他のカフェのやうに五月蠅くたかつて來るやうなことがなく、親友同志が本當に胸襟を開く爲めに、そして小さな妹か弟をつれて何か洋食を食へさせてやる爲めに、更に又親をつれてさへ安心して入ることの出來るカフェである。入口に支配人のやうな洋服の男が立つてゐて、一々入つて來る客に向つて慇懃に挨拶するなど、些細なことでも客にして見れば氣持の悪いことではない。そして又このキリンでは、さすがにお手許のビール丈けあつて、他のカフェで飲ませるよりも生一杯に就いて五錢安いので、だから本當のビール黨には三杯のお金で四杯飲むことが出來、しかも女給たちが品よく絶えず

サービスしてくれるので、なまぢつかなカフェに飛び込んで、女にへたばりつかれた場句、高いドイツビールでも飲まされるくらゐなら、いつそのカフェ・キリンで始めから御興を据ゑて、試しにこゝの特色あるカレー・ライスを食べて見る方がどのくらゐ利口で、氣持がいゝか知れはしない。恐らくこゝは、ビールの客が多いのだから、女の給料は或る程度まで、店で保證してゐるのだらう。若しさうでないとするなら、こゝの女たちの誠意ある客の持成方は、聲を大にして賞めらるべきである。

ビヤ・ホールといへば、銀座でカフェらしきもの、飲食店らしきものといふことの出来たのは、日露戦争當時既にあつた、京橋の橋詰と新橋際のビヤ・ホールぐらゐのものだつた。

京橋ビヤ・ホールが西洋料理を始めて、四品パン付五十銭といふ時代(明治四十二年)であつた。そして是等のビヤ・ホールと呼應して、淺草の雷門には神谷バーがあつたのである。

今までバーといへば、チンヤ・バーとか、神谷バーとか、本郷バーとか、何れもウキスキー一杯十銭級の盛り場の酒場を先づ想像したものであるが、今ではカフェといふよりはバーとい

つた方が、美人がゐて気分が落著き、それに何んとなくロマンチックな僥倖が轉がつてゐるさうで、第一フレツシユでモダンらしく耳に響くやうになつて來た。

バー・ルパン、バー・ユーモア、バー・太平樂、バー・朱雀、バー・ブロードウェイ、バー・グラウス——と出来るのも出来るのも皆んなバーばかりで、一向カフエと名のつくものが新らしく出て來ないのである。それも尤もだ。カフエ・ライオンさへが、今ではバー・ライオンといつた方がいゝくらゐに姿を改めてゐるのだから、たとへ内容に於ては大した違ひがないにしても、流行で、バーでなくては承知しないやうになつて來たのである。今にカフエ・エー・ワンのやうな大きな設備の整つてゐる店でなければ、カフエといふ看板を出さぬやうになるかも知れない。この點、船のクロネコとは、どつちつかすのうまいものを考へ出したものである。

銀座にバーが殖え出したと同じやうに、カフエは、人形町にも、神樂坂にも、麻布一の橋にも、青山四五丁目にも、澁谷にも、新宿にも、洲崎にも、吉原にも、大塚にも、いやズツと場末の町の大崎や目黒や五反田や、そして更に郊外の中野や池袋や高圓寺の邊りにまで、非常な

勢ひで進出して來た。殊に最近新宿に於けるカフェの發展は大したもので、新歌舞伎座に抜ける横町や、そして又遊廓側の電車線路の裏通りなど、カフェが軒を並べて、宛然カフェ街を現出してゐる。カフェのこの雪崩!

所謂洋食を食べさせるカフェは、大カフェを除いて、専ら銀座から姿を絶ちつゝあるのであつた。そして三層樓のユニオン・バーさへ、堂々と銀座の表通りへ出現するに到つたのだ。

マツチペイパー競争

近頃カフェやバーの店の名が、ひどく混み入つて來た。先づ新機軸の名を付けて、珍らしい、又はモダンなそれ等の店の名で、客を呼ぼうといふのである。

銀座邊りでは、ライオン、タイガー、キリン、クロネコと一時動物園の感があつて、私たちも友人と話をする時など、

「虎の奥にゐるからね、七時頃待つてゐるよ。」とか、

「今日はネコの二階みぎがはの右側さ。」とか、そして又或る時などは、わざわざライオンを獨逸語でレベなどと呼び習なまはして、隠語いんごのやうにして使つてゐた。

が、この頃では動物の名も廢つてしまつて、横文字流行になつて來た。それも流暢りうちやうに耳に響くやうにと苦心した結果、どこで見たのか教おそはつたのか、佛蘭西語が可成かなり多く選ばれてゐるやうだ。中には一ぺんぐらゐ聞いても直すぐ忘れてしまふやうな、覺え難にくい名前もあるが、そして又ハイカラな名にも拘かはらず馬鹿々々しく粗末そまつな店みせもあるが、しかし又店みせの名から來る感じと如何かにもスッキリ調和てうわしてゐるものもないことはない。

この外國語を選けいぶ傾向は、客このの好みはんえいの反映からか、又は經營者自身の好みからか、それはハッキリ分らぬけれども、兎に角鳥渡ちよつとした喫茶店きつてんを始めとして、カフェやバーが皆みんな外國語を選ぶのは面白い現象げんじやうである。そして同時に、店のマツチのペイパーなどにも色々いろと工夫こを凝こらして、時にはマツチを街頭がいとうで配くるやうなところさへあり、暗あんにマツチペイパー宣傳せんてんせん戦が行はれてゐる。事實又、東京人のあつさりした好みこのからか、東京には、大阪の美人座めいじんざのやうなゴテついた

マッチの意匠は、比較的少ないやうである。

で、最も新しい流行としては、映畫に因んだ名の店である。映畫會社で散々宣傳に努めて全國的にセンセーションをまき起した映畫の題名や、人氣俳優の名を持つて來るのである。たとへば、モン・パリ、リーベ、ヴォルガ、シカゴ、マノン、ハリウッド、ブロードウェイの如き、或ひは又クララ、キャロル、メーゾン・ヤへの如き。

バーの名で、それを耳にした丈で鳥渡行つて見たくなるやうな感じのする、最も尖端的なもの例としては、曰く、ガストロ、リラ、グラウス(以上日本橋)。ルパン、ジャボン、モンマルトル(以上銀座西側)。バンドーラ、ベル・ヌイ、スリール(以上東側)等を數へることが出来る。尤も、この中にさへ、名實伴はぬ、失望するバーが一二ないでもないが。

女主人公の名を名乗るカフエやバーも、ちよいちよいある。しかしこの場合は、その女主人公が一晚に一度ぐらゐは客席に御挨拶に出て來ぬと、それが始めて來た客などには、何んだか騙されたやうな氣がして不愉快になることがあるのである。たとへば、バー・清野にしても、

ジュン・バーにしても、私たちは最初から若干佐々木清野を期待し、渡瀬淳子を期待するのである。で、淳子が病氣と聞いて直ぐ歸る紳士があるかと思ふと、清野が「お客よ、来たか」といふやうな愛想のない様子で出勤して来たのに憤慨して飛び出した會社員もあるといふ具合だ。従つて、ひどく賣り込めれば別だが、女主人公の店の名は、初めから魅力のある代りに危険もあるといふ譯である。

イナイナイ・バーに就いては前に述べたから略するが、このやうな慘憺たる考案のバーを除いて、最もバーらしく穩健なのは、フレデリクマウス、サイセリヤ、ムーラン、ニューヨーク、ルパン邊りであらう。人を食つた名前では、コンバンワ。

そこで私自身はどういふ進路でカフエやバーを歩くかといふと、勿論お金の有無によつて多少違ふが、銀座のカフエで時間を平氣で潰してヨタつてゐられるのは、やつぱりカフエ・タイガーである。彼女等は敏感であるから、このお客に金があるかないかといふことを、三四の會話によつてちやんと突き止める。

「何をお飲みになりますか？」と訊いて、

「さア。」

といふお客の返事の音波に、あつてのさアか、なくてのさアか、この微妙な區別を直ぐ嗅ぎ分ける彼女等は、一種の天才である。で、お金のある時は、大概の常連が誘はれるまゝに、そしてそれはこの不況時代にあつてチップを彼女等は確保することになるのだから、若干いゝ氣持になつて紫から赤へ、青から紫へ、もつと好人物になると、赤青紫と萬遍なく御氣嫌を伺つてゐるお客もあるくらゐだ。

兎に角、金があればあるやうに面白いし、なければないやうに、生ビールばかり飲んでゐても女の目先が變つてゐて面白い。互ひに揚足をとつたりとられたり、いゝ年をした男さへが女達のやうに、娘のやうに、冗談を戦はしてゐるのである。殊にバーの全盛につれて聊さか没落の氣運があるので、女たちが考へ直したものか、近頃誰れ彼に向つて馬鹿にお世辭がいゝのである。二三時間遊んでチップが一圓なら、圓タクよりは安からう。

バーで上品じゆうひんなのは、ジャボンか、セレクトか、サイセリヤか、フレーデルマウスか、ルパンだらう。何れも落著おちついてゐて、気分といひ女といひ、それぞれ特徴を持つてゐて、快適くわいてきな銀座の散歩さんぽの途みちすがら、カクテルを、ドイツビールを、靜しずかに口くちにするによろしい。そして又、女が澤山やまゐて、安やすく面白おもしろく、且かつつ日本酒の置いてあるバーは、ニューヨークか朱雀であらう。

——で、話をマッチに戻すが、色々工夫を凝こらしてゐる割には、洒落しやれたマッチといふものは中々なかなかないものだ。しかも何なにんと思議しぎなことには、折角せつかくの利いたマッチを造りながら、客が請求せいきうしなければ、出でし惜おぼしんでくれようとしおぼない店みせさへ相當あるのだ。船のクロネコ、カフェ・オリエントがこの好例である。あべこべに氣前きぜんよく出して來るのが、フレーデルマウス、カフェ・キリン、朱雀だ。意匠いせうの傑出せつしゅつしてゐるマッチは、サイセリヤ、ルパンだらう。大阪は、圖案えんを慾張よくちやうつて結局趣きのないものとなつてゐるやうだが、中にはフランス・バーのやうに、嫌味きらみのない、それでゐてエロチックなマッチもある。大阪では最近マッチ代りに女給の寫眞入りの名刺が流行り出して來た。やがて女給名刺競争の日が東京にも將來するだらう。(一二九頁参照)